

# JCHO大阪病院 看護部クリニカルラダー 2016年度 改訂

		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ	
<b>JCHOのミッションに基づく統合的な目標</b>		・指導の下で安全な看護ができる。 ・組織の一員であることを自覚し、施設を利用する全ての人、協働する全ての仲間に丁寧な対応ができる	・地域における自施設の機能を理解できる。 ・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として看護職に求められる役割を考え行動につなげることができる。	・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として、患者および家族、地域の人々の生活上のニーズに応えるために積極的に問題解決に参画できる。	・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズを統合したケアを提供するためにリーダーシップが発揮できる。	・地域関連施設と連携を図り、ケアを継続できる。 ・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズを統合したケアを提供する実践モデルとして行動できる。	
<b>大阪病院看護部の到達目標</b>		・指導を受けながら基本的援助が安全に実施できる。 ・チームメンバーとしての役割・責任を果たす。 ・社会人・専門職業人であることを自覚する。	・看護過程を踏まえ、個別的ケアが実践できる。 ・所属部署における専門的知識をもって、問題解決できる。 ・日々の看護業務においてリーダーシップがとれる。	・対象を全体的に把握し、見通しを立てることができる。 ・自ら状況を判断し、対象に適した看護が実践できる。 ・部署におけるリーダーシップの発揮ができる。 ・他者に教育的・指導的に関われる。	・理論的知識と実践的知識を統合した看護実践ができ部署における役割モデルとなることができる。 ・看護単位の課題を明確にし問題解決のために主体的に行動できる。 ・キャリア開発に関して目指す方向に主体的に取り組むことができる。 ・看護の質の向上に向けて専門を追求した研究に取り組める。	・看護単位の患者を把握し、ケアの必要度を把握することができる。 ・看護単位における課題を明確にし、目標を示しながら、具体的解決を図れる。 ・看護単位における教育的役割がとれる。 ・看護単位における看護実践に関して調整的役割をとり、管理者を補佐するとともに、メンバーに対して指導や支援ができる。	
<b>倫理実践力</b>		①看護職として自覚と責任を持った行動がとれる。 ②看護職の実践は倫理綱領に基づくものであることが理解できる。 ③看護の倫理原則を理解できる。	①患者・家族の思いや考えを理解し、彼らの人権を尊重した行動がとれる。 ②看護の倫理原則を、日常の看護ケアと関連づけ、倫理的ジレンマに気づくことができる。	①患者と家族の価値観を理解できる。また、医療従事者側としての彼らの価値観、患者・家族に関わる他職種の価値観も理解できる。 ②価値観の多様性と、お互いの価値を尊重することの重要性を理解し、倫理的ジレンマから倫理的問題を明確にし、解決策を検討できる。	①患者・家族の倫理的意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる。 ②患者・家族および日常業務における倫理的問題の顕在化をはかり、適切な判断、解決につながる看護ケアを実践できる。 ③上記①②を通して、倫理実践者としての良きモデルを示せる。	①適切なリソースを積極的に活用し、倫理的意思決定プロセスを支援することができる。 ②法のおよび文化的配慮など、多方面から対象となる人々を擁護した、倫理的意思決定プロセスを支援できる。	
<b>看護を臨地で実践する能力</b>	<b>ニーズをとらえる力</b>	<b>レベルごとの目標</b>	助言を得て患者や状況(場)のニーズをとらえる	患者や状況(場)のニーズを自らとらえる	患者や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	患者や状況(場)を統合してニーズをとらえる	患者や状況(場)の関連や意味をふまえてニーズをとらえる
		<b>行動目標</b>	①助言を受けながら患者に必要な身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 ②患者の状況から緊急度をとらえることができる。	①自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 ②得られた情報をもとに、患者の全体像としての課題をとらえることができる。	①患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる。 ②得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる。	①予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 ②意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる。	①複雑な状況を把握し、患者を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる。 ②患者や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる。
	<b>ケアする力</b>	<b>レベルごとの目標</b>	助言を得ながら、安全な看護を実践する	患者や状況(場)に応じた看護を実践する	患者や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		<b>行動目標</b>	①指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる。 ②指導を受けながら、患者に基本的援助ができる。 ③看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる。	①患者の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる。 ②患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる。 ③患者の状況に応じた援助ができる。	①患者の個性に合わせて、適切なケアを実践できる。 ②患者の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる。 ③患者の個性性をとらえ、看護実践に反映ができる。	①患者の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる。 ②幅広い視野で患者をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる。	①患者の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる。 ②複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる。
<b>協働する力</b>	<b>レベルごとの目標</b>	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	患者やその関係者、多職種と連携ができる	患者を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	患者の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす	
	<b>行動目標</b>	①助言を受けながら患者を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる。 ②助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる ③助言を受けながらケアに必要なと判断した情報を関係者から収集することができる。 ④患者を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる。 ⑤連絡・報告・相談ができる。	①患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれ積極的に情報交換ができる。 ②関係者と密にコミュニケーションを取ることができる。 ③看護の展開に必要な関係者を特定できる。 ④看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる。	①患者の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる。 ②患者とケアについて意見交換できる。 ③積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる。	①患者がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる。 ②多職種間の連携が機能するように調整できる。 ③多職種の活力を維持・向上させる関わりができる。	①複雑な状況(場)の中で見えにくくなっている患者のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる。 ②多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる。 ③関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる。 ④目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる。	
<b>意思決定を支える力</b>	<b>レベルごとの目標</b>	患者や周囲の人々の意向を知る	患者や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	患者や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	患者や周囲の人々の意思決定に伴う揺らぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる	
	<b>行動目標</b>	①助言を受けながら患者や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる。	①患者や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる。 ②確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる。	①患者や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる。 ②患者や周囲の人々の意向の違いが理解できる。 ③患者や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる。	①患者や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる。	①適切な資源を積極的に活用し、患者や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる。 ②法のおよび文化的配慮など多方面から患者や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる。	
<b>管理</b>	<b>医療安全</b>	<b>安全</b>	①医療安全管理体制について理解できる。 ②支援を受けながら基準手順を遵守し行動できる。	①医療安全管理体制について理解し、基準手順を遵守した行動がとれる。	①患者の基準をベースに個別性を捉えた安全対策を考え実施できる。	①部署内の安全に関するリスクを予測し問題提起ができる。 ②療養環境が安全であるか常に配慮し、調整できる。	①部署の安全管理に関する問題解決に向けて計画的に行動(改善・マネジメントサイクル・刷新)がとれる。 ②療養環境が安全であるか常に配慮し、後輩に教えることができる。
		<b>感染</b>	①感染予防管理体制について理解し、基準手順を遵守した行動がとれる。 ②スタンダードプリコーションが遵守できる。	①日々の防災チェック、初期行動がとれる。 ②災害訓練に参加できる。	①基準手順に則った基本をふまえて患者に応じた感染対策が実施できる。	①部署内の感染管理について問題を提起できる。	①部署内の感染管理に関する問題解決に向けた対策を立案し、実施できる。
	<b>災害</b>	<b>災害</b>	①災害・防災体制について理解し、指示に基づき初期行動がとれる。 ②自部署の管理体制(消火設備、避難経路)がわかる。	①日々の防災チェック、初期行動がとれる。 ②災害訓練に参加できる。	①災害訓練に参加し、部署の特殊性を考え役割を遂行できる。	①災害に備えた部署内の問題について提起できる。 ②災害(訓練)時にリーダーシップを発揮できる。	①部署内の災害対策に関する問題に取り組む準備ができる。
		<b>情報管理</b>	①情報管理体制について理解し、基準手順を遵守した行動ができる。(記録・PC・パスワード・守秘義務)	①情報管理体制について理解し、状況を判断した行動ができる。	①部署内の情報管理について問題を提起できる。	①部署内の情報管理について問題を提起できる。	①部署内の情報管理に関する問題解決に向けた対策を立案し実施できる。

組織的役割遂行力	管理	労働安全衛生	①定期的に健康診断を受診するなど、自身の体調管理ができ、心身ともに健康な状態で仕事に臨める。 ②労働安全管理体制について知り、理解できる。 ③メンタルヘルス、ハラスメントに関する相談窓口を知る。	①ストレスを自覚して自分自身で対処行動がとれる。 ②労働安全上の問題や仕事上の悩みについて相談できる。	①職員の労働安全に関する問題に気づき、職場環境を整えるための建設的な意見がいく。	①職員の労働安全が確保できるような職場環境を整えるための取り組みができる。	①職場環境が安全であるか常に配慮し、対処方法を後輩に教えることができる。	
		目標管理	①組織の理念、看護部・部署の目標が理解できる。 ②組織の構成員としての役割を理解し、報告・連絡・相談ができる。	①組織の一員としての役割が理解でき、目標達成に向け行動できる。	①部署の目標達成に向けて、活動計画を遂行できる。	①部署の目標達成に向けて、スタッフを巻き込みながら計画的に実践できる。	①看護部や看護単位の目標に基づいた活動を推進できる。	
		リーダーシップ	①チーム医療の一員としての役割を理解し行動できる。(連絡・報告・相談ができる/事実を正しく報告できる) ②リーダーの役割を知ることができる。 ③同僚や他の職種と患者に関する情報交換ができる。 ④他の職種とのカンファレンスに参加し連携の実態を知る。	①日々の看護業務において協力したり、支援を得るなど調整できる。 ②職種における役割や考え方の相違を理解できる。 ・他職種における役割や考え方の相違を知り、お互いの立場を理解する。 ③チーム医療における職種間においてカンファレンスで意見を述べることができる。	①チーム医療において業務が円滑、的確にできるようチームメンバーに指示することができる。 ②関係職種と連携し、患者・家族の個性を捉えたケアへつなげることができる。 ③看護チームにおいて業務が円滑、的確にできるようチームメンバーにアサーティブに指示することができる。	①部署内のチーム活動や各種委員会活動において推進役となり、チームをまとめることができる。 ②自他の役割と立場を理解し、協調的な関係を築くことができる。 ③社会福祉制度を活用するために必要な部門・施設との連携調整がとれる。	①部署を越えた取り組みにおいて横断的に関わり成果を出すことができる。 ②地域医療サービスのためのネットワークを活用したチーム医療の調整役割が果たせる。 ③協働する他の職員とアサーティブに関わり、チーム医療を推進することができる。	
	教育	経済	①支援を受けながら費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる。 ②支援を受けながら時間の使い方を考えることができる。	①費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる。 ②支援を受けながら時間内に各勤務帯の業務を終えることができる。	①費用対効果を考慮して患者に応じて工夫しながら物品を適切に選択・準備・使用できる。 ②診療報酬制度や行政の取り組みに興味を持つことができる。 ③自ら調整して、時間内に各勤務帯の業務を終えることができる。	①自施設の物流システムを理解できる。 ②診療報酬制度を理解することができる。 ③チームメンバーのタイムマネジメントを支援することができる。	①診療報酬制度に対応するしくみづくりができる。 ②看護単位における予算の流れを理解できる。 ③所属部署のタイムマネジメントを推進できる。	
		教育		①新人看護職員や学生の指導に協力し、適切な助言ができる。	①新人看護職員や学生の実践に関する実地指導、評価ができる。	①新人看護職員や学生の指導者を支援できる。 ②部署の後輩育成に関する教育計画の立案・実施・評価ができる。	①教育的視点で学生指導・新人看護職員の指導を担当するスタッフへの支援・指導ができる。 ②施設の教育活動に参画できる。 ③患者の臨床アウトカム・コストアウトカム改善のための職員への介入ができる。	
		自己開発	①部署や院内で計画されている研修会・学習会に積極的に参加する。 ②部署の特徴を理解し、自主的な学習ができる。 ③自己評価および他者評価を踏まえた自己の学習課題がわかる。 ④能力評価の基準に従って、自己評価を行うことができる	①能力評価の機会に関わらず、日々の実践から生じた疑問点、不明点など、自己の学習ニーズを明確にし、知識・技術を習得する。 ②自己・他者評価を踏まえ、客観的な評価に基づき自分自身で学習課題を明確にし、目標を持って学習ができる。	①施設内外の研修会・学習会に自主的に参加し、看護ケアに活かすことができる。 ②中長期的な自己のキャリア形成を描くことができる。 ③自己の実践を内省し、実践からの経験知の確認をし、多面的な思考から、さらによりよい実践のための課題発見、新たな学習につなげることができる。	①自己のキャリア形成について考え、そのための能力開発を含めた行動を起こすことができる。 ②日々の看護ケアに関連のある知識技術に関して、幅広い学習の機会から情報を得て、自己研鑽できる。 ③他者に知識・技術を教育する機会を得ることが、個人の能力開発にもつながることを理解し、後輩のロールモデルとなり、自己の知識をしっかりと教え導くための努力を惜しまない。	①看護師としての自己の方向性を明確にし、キャリア形成のための学習を、専門関連領域のみならず幅広く継続的に行っていく。 ②看護ケアという枠を超え、広く社会全体から、看護のあり方について考えられるよう、様々な動向に目を向けることができる。	
	研究		①身近な専門誌・商業誌に公表されている研究成果を読んでいる。 ②自身の看護ケアを振り返り、事例検討ができる。	①関連のある領域における研究結果やその他の根拠を実践に取り入れる。	①自身の看護ケアや先行研究を統合したうえで研究テーマを見出し、研究計画を立案できる。 ②研究計画に沿って研究に取り組み、得られた成果を学術集会において発表できる。	①研究成果を専門誌に公表できる。 ②研究のプロセスを理解し、研究チームの中でリーダーシップを発揮できる。 ③看護実践から得られた知見を個別の患者に応用できる。		
	最短経験年数目安	11年目						
		10年目						
		9年目						
8年目								
7年目								
6年目								
5年目								
4年目								
3年目								
2年目								
1年目								